



2013 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 第 一 三 共 株 式 会 社
代 表 者 代表取締役社長 中山 譲治
(コード番号 4568 東証第1部)

問合せ先 執行役員コーポレートコミュニケーション部長 石田 憲昭

TEL 報道関係者の皆様 03-6225-1126

株式市場関係者の皆様 03-6225-1125

本資料は、ランバクシーが10月29日に英語で発表したプレスリリースを日本語に翻訳し、再編集したものです。本資料の正式言語は英語であり、内容および解釈については英語が優先されますことをご了承ください。また、本資料はインドの会計基準に基づくものであり、第一三共株式会社が2014年1月31日に発表予定の日本基準の決算時には一部調整等が入りますことをご了承ください。なお、本資料の原文（英語版）は <http://www.ranbaxy.com> をご参照ください。

ランバクシーの 2013 年第 3 四半期決算について

2013 年第 3 四半期（7～9 月）売上高 275 億インドルピー

2013 年第 3 四半期累計（1～9 月）売上高 775 億インドルピー

インド共和国ハリヤナ州グルガオン地区（2013 年 10 月 29 日）

ランバクシー・ラボラトリーズ（本社：インド共和国ハリヤナ州グルガオン地区、以下「ランバクシー」）は本日、2013 年第 3 四半期（7～9 月）ならびに 2013 年第 3 四半期累計（1～9 月）のインド会計基準に基づく決算を発表いたしました。

1. 財務ハイライト

2013 年第 3 四半期（7～9 月）連結業績の概況

- ・ 連結売上高 275 億ルピー [前年同期：267 億ルピー]

当第 3 四半期の連結売上高は、インドにおける新薬価制度や取引懸念、また前年同期は米国でアトルバスタチン独占販売による貢献があったことなどによる影響を受けました。

- ・ EBITDA は 20 億ルピーでした。

2013 年第 3 四半期累計（1～9 月）連結業績の概況

- ・ 連結売上高 775 億ルピー [前年同期：958 億ルピー]

EBITDA は 55 億ルピーとなりました。ベースビジネスの利益率は前年同期に比べて改善しました。

また以下の特殊要因が収益に影響を与えました。

- インドルピーの米ドルに対する下落は、輸出事業にはプラスに作用いたしますが、会計基準の適用により、デリバティブや外貨建てローンの残高全体を評価換えする際にマイナスの影響を受けます。
2013 年第 3 四半期においては、36 億ルピー、2013 年第 3 四半期累計においては、76 億ルピーの費用が為替関連勘定科目として損益計算書に計上されております。また、モハリ工場での在庫に関わる減損やその他の費用として 7 億ルピーを計上いたしました。
- 税金、少数株主損益、関連会社損失計上後の純損失は 45 億ルピーでした。

ランバクシーの CEO 兼社長のアルン・サウニーは次のように述べています。

「ランバクシーは、アジア、東欧、CIS、アフリカの重点を置いている価値の高い市場において、引き続き成長しています。一方、インドにおいては、新薬価制度の発表が市場にある程度の不安定をもたらし、私たちの売上にも混乱がもたらされました。」

「私たちは、医師、患者、規制当局、その他のステークホルダーが期待する、品質や製造プロセスに関する高い基準を満たすことができるようになることを確信しております。」

2. 主要ハイライト

ビジネス

- ・ 2013 年第 3 四半期のベースビジネスの売上高は、引き続き前年同期より成長いたしました。
 - 東欧・CIS、アジア太平洋などの新興国市場の売上が伸長しました。
- ・ 米国における Absorica™ (isotretinoin の新薬) の市場シェア獲得は、今後に期待が持てるものでした。2013 年 9 月 27 日現在で 17.5% の市場シェアを獲得しております。

薬事、研究開発、生産

- ・ インド薬事当局 (Central Drugs Standard Control Organization: CDSCO) より、Synriam™ のインドにおける三日熱マラリア (P. vivax マラリア) 原虫に対する治療薬として製造販売承認を受けました。これは、インド初の新薬として成人の熱帯熱マラリア (P. falciparum マラリア) 原虫に対する治療薬として 2012 年 4 月に上市した Synriam™ の追加適応症となります。
- ・ Synriam™ は、ASSOCHAM (The Associated Chambers of Commerce and Industry of India) のイノベーション・アワード 2013 の科学・技術部門において、イノベーションに対する優秀・プラチナ賞を獲得しました。
- ・ マレーシアでの新規工場用の建設用地が割り当てられました。
- ・ 米国 FDA により、インドのモハリ工場が禁輸措置を受け、同意協定書 (Consent Decree) の条項下に含まれることとなりました。前回の 2012 年の査察以来、モハリ工場では更なる改善に取り組んできており、今後も米国 FDA の基準を満たすべく、改善に取り組んでまいります。
- ・ 米国のオーム工場は、米国 FDA より査察終了に関わる Establishment Inspection Report (EIR) を受領しました。
- ・ 2012 年 1 月にインドのデワス工場とパオンタサヒブ工場に関して締結した同意協定書 (Consent Decree) の履行については、計画通り進捗しています。
- ・ 3 品目の ANDA 製品を米国において申請しました。

会計年度の変更：ランバクシーの取締役会は、会計年度を 2014 年 4 月 1 日付けで 4 月から 3 月までへと変更することを決定しました。これにより、現在の会計年度は 2013 年 1 月から 2014 年 3 月までの 15 ヶ月間になる予定です。

3. グローバル売上高

2013 年第 3 四半期（7～9 月）の連結売上高は 275 億ルピーとなりました（前年同期：267 億ルピー）。詳細は以下の通りです。

- 高付加価値製品と OTC の売上高は 147 億ルピーとなり、全体の 53%を占めました。原薬を含むジェネリックの売上高は 128 億ルピーでした。
- ・ **北米**：第 3 四半期の売上高は 88 億ルピーでした。前年同期比で減少いたしましたが、前年においては独占販売品による大幅な貢献があったためです。
 - 米国では、第 3 四半期の売上高は 79 億ルピーでした。
- ・ **インド**：第 3 四半期の売上高は 57 億ルピー、前年同期とほぼ同じレベルでした。政府による新価格政策や取引関連規制が業績に影響いたしました。
 - OTC 事業（コンシューマーヘルスケア）の売上高は 11 億ルピー、前年同期比で 7%の増収となりました。
- ・ **東欧・CIS**：第 3 四半期の売上高は 48 億ルピー、前年同期比で 24%の増収となりました。
- ・ **西ヨーロッパ**：第 3 四半期の売上高は 20 億ルピー、前年同期比で 31%の減収となりました。
- ・ **アフリカ・中東**：第 3 四半期の売上高は 25 億ルピー、4%の増収となりました。
- ・ **アジア パシフィック・ラテンアメリカ（含むスリランカ）**：第 3 四半期の売上高は 23 億ルピー、前年同期比で 14%の増収となりました。
- ・ **原薬その他**：第 3 四半期の売上高は 15 億ルピーとなりました。

2013 年度の見通し

2014 年 3 月 31 日を期末とする 15 ヶ月決算において、1,300～1,350 億ルピーの売上高を予想しております。この中には、FTF 品（米国における独占販売権を有する後発品）による売上高は含まれておりません。

**特に記載がない限り、全ての成長率の数値は期間中の為替変動を除いた一定の為替ベースで計算しています。*

以 上